

マラウイ月報(2014年2月)

主な出来事

【内政】

- 2月14日, 大統領選挙に向け立候補手続きが完了。
- 2月21日, 英ベイカーティリー社は汚職問題に関する法廷用監査報告書をマラウイ政府に提出。

【外政】

- 2月1～3日, サーリーフ・リベリア大統領がマラウイを訪問, バンダ大統領と女性問題等協議。
- 2月10日, リロングウェにて障害者についてのアフリカ首脳フォーラムを開催。

【経済】

- 2月4日, トヨタ・マラウイは, 事業開始50周年記念式典を開催。
- 2月7日, 北部カエレケラ鉱山にてウラン採掘を行っている豪パラディン社がウランの採掘の一時休止を発表。

【内政】

・ 大統領候補, 立候補手続きを完了

2月10～14日, 11の大統領立候補者がマラウイ選挙委員会に申請用紙を提出し立候補手続きを完了, 各党の副大統領候補も明らかとなった。バンダ大統領は若者票を狙って与党人民党(PP)の副大統領候補としてグエンゲ産業・貿易大臣を指名。ムタリカ候補(DPP)も若手のチリマ前エアテル社長を副大統領候補として選挙戦に臨んでおり, 経済界を中心に票の取り合いが進むものと見られる。一方, 若手のムルジ候補(UDF)は老練なチャポラ氏を副大統領候補としてバランスをとる戦術。一方, 中部に強いとされるチャクエレ候補(MCP)はムソオヤ副党首(北部出身)を副大統領候補につけ北部票獲得も目標。

・ 汚職問題に関する法廷用監査報告書提出

2月21日, 英国政府国際開発省の委託を受けマラウイ政府への法廷用監査を実施した英ベイカーティリー社は, マラウイ政府に監査報告を提出した。同報告では公金不正総額は136億クワチャ(約34億円)とされた。2月24日, 報告書はマラウイ国会会計検査委員会(PAC)に提出されたが, 報告書に汚職に関与した個人・組織名の記載が無いことを理由に, 委員会では報告書の受理を拒否。マラウイ政府は, 個人・組織名の無記載は法的手続きを妨げないためであると説明しているが, 野党やマスコミからは批判の声が高まっている。

・ 市民デモ行進

2月27日, ブランタイヤにて市民団体連合が平和的にデモを行い, 汚職問題や大統領機スキャンダルへの対応を巡る政府への嘆願書を提出した。デモに先立ち, ムピンガンジラ情報大

臣は、当該デモは外国政府の支援によるものである等と発言し、当地外交団の反発を招いたが、政府は同大臣の発言を訂正し、外国政府を批判する意志は無いとした。

- ・ **大統領機スキャンダル**

新聞報道により、バンダ大統領は売却したとされる大統領機をその後も使用していたことが判明した。大統領機を買い取ったとされるボーノックス社は、南ア系のパラマウント・グループの小会社であり、同じくパラマウント・グループの小会社であるフォーチューン・エア社が、昨年8月～12月の間に20回以上バンダ大統領の大統領機使用を手配していたと報じられている。

【外政】

- ・ **サーリーフ・リベリア大統領の訪問**

2月1～3日、サーリーフ大統領はマラウイを訪問し、バンダ大統領主催晩餐会、マラウイ職業女性対話フォーラム、特別講演などの諸プログラムをこなした。各プログラムにはバンダ大統領が同行し、両大統領が、それぞれを「姉妹」と呼称するなど親密ぶりがアピールされると共に女性問題への啓発、アフリカの開発などに言及する機会が多く、一方で、各行事は5月の当国選挙を意識した選挙キャンペーンの様相を呈していた。

- ・ **マラウイ国立図書館に「米欧回覧実記」を寄贈**

2月5日、在マラウイ日本国大使館でマラウイ国立図書館への特命全権大使「米欧回覧実記」（英語版）の寄贈式が行われた。同式では西岡駐マラウイ日本国大使より、寄贈者である齋藤・日本文献出版社主のアフリカにおける人材教育への貢献に謝辞を述べ、寄贈された図書が多くの国民に利用され、マラウイの発展に資することを願う旨発言があった。

- ・ **障害者についてのアフリカ首脳フォーラム開催**

2月10日、リロングウェにて障害者についてのアフリカ首脳フォーラムが開催され、ムガベ・ジンバブエ大統領他11の国家代表及び各種国際機関代表が出席した。

- ・ **リトルフィールド米海外民間投資公社社長の訪問**

2月23日、リトルフィールド社長は、昨年初旬に行われたバンダ大統領訪米のフォローアップのためにマラウイを訪問し、米国の対マラウイ投資の増加に向けた可能性等に関しバンダ大統領及びビジネス関係者等と会談を行った。

- ・ **チクエンバ与党PP青年部幹部、在京大書記官へ**

バンダ大統領は予備選挙に敗退したチクエンバ与党人民党(PP)青年部幹部を在京大使館のポストに任命。マラウイ外務省によれば、同人は2月27日に日本に到着し、投資担当の一等書記官として勤務する。

【経済】

・ クワチャ安が緩和傾向

市場はクワチャ安緩和の傾向を見せている。中央銀行はこれに関し、政府の金融引き締め政策の下中央銀行が、市中銀行が保有する余剰クワチャを減らす手段を取ったため、更に、財務省による緊縮財政が余剰クワチャを減らす手段を支持したために実現できたと説明している。

・ 市中銀行による貸出し金利の引き下げ

複数の市中銀行は貸出し金利を引き下げる傾向を見せており、平均して40%から36%へ引き下げた。これは、国債の金利が下がっていること、金融市場における流動性(一定期間、銀行等機関における現金の引き出し易さ)が改善されたことが理由。これに加え、銀行間貸出し金利も21.6%から14%へと引き下げられた。

・ マラウイ航空の運行開始

1月31日、マラウイアン航空は国内便を就航させ、航空会社としての業務を開始した。同航空会社によれば、国際フライトについては、まずヨハネスブルグ、ルサカ、マプト、ベイラ、テテ、ダルエスサラーム、ハラレ、ケニア、ウガンダの9カ所へのフライトから運行が開始される予定。

・ トヨタ・マラウイ事業開始50周年記念

2月4日、トヨタ・マラウイは、事業開始50周年記念式典を行った。トヨタ・マラウイの前身であるモバイル・モーターズ社が、トヨタ車の唯一のディーラーとして当国にて事業を開始したのが1964年であり、その後トヨタ・マラウイと社名が変更された。トヨタ・マラウイは50周年を記念し、50台のカローラを10%値下げして販売する50周年50台("50 cars/50 years")キャンペーンを開始した。

・ 燃料価格の値上げ

2月6日、エネルギー規制庁は燃料価格の値上げを発表した。値上げ後の価格はそれぞれ、ガソリン839クワチャ、ディーゼル853.4クワチャ、灯油719.3クワチャとなっている。

- ・ **カエレケラ鉱山のウラン採掘一時休止**

2月7日、北部カエレケラ鉱山にてウラン採掘を行っている豪パラディン社が、酸化ウランの価格が下落し続けていること、同鉱山における採掘事業は採算が取れておらず、事業継続のための資金需要を維持できなくなったことを理由に、ウラン採掘の一時休止(care and maintenance)を発表した。またその後17日、同カエレケラ鉱山から酸化ウランを輸送中のトラックが横転し、酸化ウランが流出する事故が発生した。事故後、同社の流出処理班がカエレケラ鉱山より駆けつけ、流出した酸化ウラン等の回収を行った。原子エネルギー規制局は、パラディン社の対処に問題が無かったとしている。

- ・ **FAOによる支援**

2月22日、エチオピアでのAU総会にて、国連食糧農業機関(FAO)は、食糧安全保障及び災害対策のため、マラウイ政府に対する200万米ドルの支援をコミットした。

- ・ **MCCによる電力セクターへの支援は順調に進捗**

米ミレニアム・チャレンジ公社(MCC)の電力セクター支援のコンサルタントである独fichtner社は、プロジェクトは順調に進捗しており、現在ヌクラA発電所の改修、マラウイ南部から中部までの400kVの送電線等建設の設計が行われているとした。建設工事は今年中に開始される予定。

- ・ **マラウイ政府による鉱業法の改正進捗**

現在、鉱業法は1981年、環境管理法は1996年、探査及び採掘法は1983年、爆発物に関する法は1983年とそれぞれ古い法律が使われており、市民団体等からは、鉱業分野の発展に障害となっていると非難されている。これに関し、政府(鉱山省)は鉱業法改正を進めており、鉱業法の改正について、公開審議が終わり次第、改正案が法務省に送られる予定である。また、バンデ鉱山大臣は、2013年の鉱業分野のロイヤリティー等による当国の収入が17億クワチャ(前年の3.85億クワチャの4倍)であったことを発表した。

- ・ **マラウイ開発銀行設立の事業化調査完了**

中央銀行は世銀からの13万米ドルの資金援助、アフリカ開発銀行から専門家派遣の支援を受け、マラウイ開発銀行設立の事業化調査(FS)を完了させた。マラウイ開発銀行は、現在市中銀行が行っていないが、国の経済発展には必要な長期の貸付けを行う予定。

【警備・治安】

・ 交差点付近での車両強盗

2月13日、国連職員4名が乗車する車両が交差点を走行中に強盗に襲われる被害にあった。車両のドアをロックしておらず、交差点付近にいた強盗にドアが開けられた。

・ 住居侵入強盗

2月16日、深夜1時頃にロングウェ市の住居に20人の強盗団が侵入し、住人を縛り上げ、ラップトップ、携帯電話、現金を強奪する事件が発生。同日の日中に警報機を住居へ設置したばかりで、警報機は電話回線に接続されておらず、アラームを通報出来なかった。

・ 邦人への強盗被害発生

2月20日、リロングウェ市エリア3の邦人企業の事務所(ホテル敷地内)に拳銃を所持した4人組の強盗が押し入り、銀行から引き下ろしたばかりの現金(6,000米ドル分のマラウイ・クワチャ)が強奪される事件が発生。スタンダード銀行より、邦人企業のナショナルスタッフ2名が現金を引き下ろしたが、銀行から事務所までの帰路を尾行されており、事務所へ戻った瞬間を狙われた。

【医療】

・ カムズ中央病院の遺体安置所で遺体が腐敗

2月24日、カムズ中央病院の遺体安置所は腐敗した遺体であふれ閉鎖された。院外からも搬入される遺体で収容能力の限界を超え、冷却システムの故障は放置されたままである。